

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
具体的な施策	ア	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	③	しまを支え、利便性を高める交通基盤づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	バス路線維持費補助事業		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名			
事業の目的	バス路線の維持確保を図ることにより、地域住民の日常生活における利便性を向上するため。		
事業の内容	<p>○有川港ターミナル～奈良尾車庫前（国補助路線）、青方～奈良尾車庫前（県補助路線）に対する補助金で、補助額は、実績欠損額から国及び県の補助額を控除した残りの額を限度として補助するものである。</p> <p>○新上五島町バス路線維持費補助金交付要綱</p>		
事業の実績・取組状況	<p>バス路線維持費補助金を交付した。 13,430千円</p> <p>・有川港ターミナル～奈良尾車庫前 補助額：11,043千円、対前年度比 3,341千円の増 利用者数： 89,259人、対前年度10,121人減</p> <p>・青方～奈良尾車庫前 補助額： 2,387千円、対前年度比 374千円の減 利用者数： 28,919人、対前年度比 3,195人の増</p> <p>【参考】H27年度バス路線損失補償額実績 90,399千円、対前年度比 25,052千円の増 ・11路線 利用者数：214,229人、対前年度比67,828人の増（うち 若松島内線 59,528人増）</p>		
成果（できたこと）	補助金を交付することにより不採算のバス路線を運行することができ、地域住民の日常生活における利便線の向上及び地域住民の足としての維持確保が図られている。		
課題（できなかったこと）	<p>○少子高齢化や自家用車の普及等により、利用者数が減少しており、今後もその傾向が続くものと思われるため、バス利用の促進を図ることが課題である。</p> <p>○また、利用者の減少が補助対象路線の要件である経常収益の悪化につながり、国及び県補助を受けられなくなることが懸念される。</p>		
担当課評価	C	本事業により、地域住民の日常生活における利便性の向上及び地域住民の足としての維持確保が図られているが、利用者数が減少傾向にある。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	<p>○現在の第2期地域公共交通総合計画（H29まで）の見直しを行い、今後の公共交通の方向性・あり方などを検討し、地域公共交通網形成計画の策定に向けて、交通ネットワーク協議会などと連携して取り組んでいく。</p> <p>○平成27年バス利用者数実績（年間）：429,264人（H31目標値：460,000人）</p>		
委員評価	C	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
具体的な施策	ア	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	③	しまを支え、利便性を高める交通基盤づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	高齢者割引パス補助事業		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名			
事業の目的	本事業は、高齢者社会への対応策として、住み慣れた地域で安心安全な暮らしの実現のため、公共交通機関の一層の移動の円滑化の促進と地域活性化を図ることを目的としている。		
事業の内容	<p>○町内を運行する路線バスにおいて、町内に住所を有する70歳以上の高齢者を対象に3分の1以内で路線バス事業者へ補助するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年有効分：通常価格 30,900円、町補助 10,300円、利用者負担 20,600円 ・4月有効分：通常価格 15,300円、町補助 5,100円、利用者負担 10,200円 <p>○新上五島町路線バス「高齢者割引パス」助成事業補助金交付要綱</p>		
事業の実績・取組状況	<p>H27年度実績（全体 349人、対前年度比 5人増、補助額 3,329千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年有効分 利用者数 305人（対前年度比 9人増）、補助額 3,105千円 ・4月有効分 利用者数 44人（対前年度比 4人減）、補助額 224千円 		
成果（できたこと）	平成21年9月から事業開始以来、微増（概ね0.2%増）ではあるが利用者数も増加しており、公共交通機関の利用促進及び利便性の確保が図られている。		
課題（できなかったこと）	本制度を知らない住民もまだいることから、本制度のさらなる利用促進に向けての住民周知が必要である。		
担当課評価	B	本事業により、公共交通機関の利用促進及び利便性の向上が図られており有効であるものの、更なる利用促進に向けた住民への周知がまだまだ不十分である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	<p>○住民への周知方法の充実（ニューズレターの発行、ホームページ、広報誌、チラシなど）を交通事業者と連携して取り組んでいく。</p> <p>○平成27年度バス利用者数実績（年間）：429,264人（H31目標値：460,000人）</p>		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	3 伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る
具体的な施策	ア 「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備
	③ しまを支え、利便性を高める交通基盤づくり
	1 地域を支えるインフラ・サービスの活性化
事業名	公共交通空白地域解消事業
担当課名	総合政策課
所属長名	小柳 哲也
関係課名	
事業の目的	本事業は、町内の公共交通路線の空白地域に対し、日常生活に不便をきたすことから、地区等に交通費の助成及び民間への運行委託を行い、地区住民の交通を確保し、日常生活の利便性の向上と住民の足としての維持確保を図ることを目的としている。
事業の内容	○各地区への交通補助金（現在、佐尾地区、須崎地区、石司地区の3地区） ○宿ノ浦若松、大平若松の2地域間において、デマンドタクシーの運行を委託
事業の実績・取組状況	公共交通空白地域解消事業 15,528千円 ○佐尾地区（ジャンボタクシー） H27利用者数 669人、補助額 2,490千円、運行便数 391便 ○須崎地区（ジャンボタクシー） H27利用者数 19人、補助額 1,011千円、運行便数 13便 ○石司地区（小型タクシー） H27利用者数 224人、補助額 420千円、運行便数 116便 ○宿ノ浦若松間（ジャンボタクシー） H27利用者数 3,795人、委託費 6,038千円、運行便数 964便 ○大平若松間（ジャンボタクシー） H27利用者数 1,436人、委託費 5,569千円、運行便数 941便
成果（できたこと）	○公共交通の空白地域における日常生活の交通手段の維持・確保が図られている。 ○公共交通の空白をなくすことにより、住民の不安解消や負担軽減が図られている。
課題（できなかったこと）	○公共交通の空白地域については、町内全体の地域の実情・要望等の把握に努めながら、今後の対応策について検討していく必要がある。
担当課評価	B 本事業により、公共交通の空白地域における日常生活の交通手段の維持・確保が図られているとともに、公共交通の空白をなくすことにより住民の不安解消や負担軽減が図られている。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	○現在の第2期地域公共交通総合計画（H29まで）の見直しを行い、今後の公共交通の方向性・あり方などを検討し、地域公共交通網形成計画の策定に向けて、交通ネットワーク協議会などと連携して取り組んでいく。
委員評価	B デマンドタクシー運行以前は、町営船が運航していた地区であり、運航廃止後の住民の足を確保することは必要。年間利用者数などデマンドタクシー運行については、需要もあることから、今後も事業を継続すべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で宿ノ浦若松間及び大平若松間は評価済み）

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
具体的な施策	ア	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	③	しまを支え、利便性を高める交通基盤づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	スクールバス更新事業		
担当課名	学校教育課	所属長名	中 村 孔 一
関係課名	総合政策課		
事業の目的	老朽化したスクールバスを年次計画により更新し、児童生徒の登下校等の安全かつ安定した輸送手段の確保を図る。		
事業の内容	各年度1台更新 ・スクールバス：ツーステップバス（若松、上五島、北魚目中学校） ・路線バス対応：ワンステップバス（上記以外の小中学校）		
事業の実績・取組状況	奈良尾中学校スクールバス（ワンテップバス）購入 23,436千円		
成果（できたこと）	児童生徒の登下校等の安全かつ安定した輸送手段の確保に繋がった。		
課題（できなかったこと）	なし		
担当課評価	B	更新計画どおりスクールバスを購入し、児童生徒の登下校等の安全かつ安定した輸送手段が確保された。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も更新計画どおり、スクールバスを購入し、児童生徒の登下校等の安全かつ安定した輸送手段の確保を図っていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
具体的な施策	ア	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	③	しまを支え、利便性を高める交通基盤づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	道路整備事業（国道・県道含む）		
担当課名	建設課	所属長名	本田 雄 喜 治
関係課名			
事業の目的	便利で安全な住民生活と円滑な経済活動確保や地域間相互の連携強化を図るため、幹線道路や生活道路について計画的な整備を図る。また、国道や主要地方道、一般県道などの幹線道路の整備促進を図る。		
事業の内容	国道・県道・町道など住民生活に欠かせない道路の整備を行う。		
事業の実績・取組状況	国県道の改良率95.6%、町道の改良率72.7%で、道路の改良を進めている。 343,468千円 【県営事業負担金】改良 上五島空港線ほか 43,729千円 【国庫補助事業】改良 浜ノ浦道土井線ほか 28,959千円 繰越明許分 18,601千円 【町単独事業】新設改良 曾根泊崎線ほか 137,142千円 繰越明許分 23,855千円 【石油立地交付金事業】改良 小浜三本松線ほか 91,182千円 ※道路橋梁維持管理事業を除く		
成果（できたこと）	財源が厳しい中であるが、道路整備事業は計画的に執行されており、利便性、安全性の向上に繋がっている。		
課題（できなかったこと）	未改良路線も多く、事業を施行するうえで、多額の事業費が必要である。また、所有権移転登記が難しいものや、利用率、経済効果の低い計画が残っている。		
担当課評価	B	住民生活に欠かせない整備事業であり、計画的に進捗されている。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	用地の取得がスムーズな路線を計画的に整備していくとともに、利用率、経済効果を検討し、事業の中止や廃止、コスト縮減等の見直しを行い合理化を図る。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

